



生活クラブ館  
・北広島

# 満10歳！おめでとう



鍵ハモンスターズの演奏でオープニング

たすけあいワーカーズ「どんぐり」のカレーライス

親子いっしょに  
楽しみました♪



生活クラブは、まちづくり・地域福祉・支部活動・ワーカーズ運動の4つの視点で「北広島まちづくり構想」に取り組んでいます。生活クラブ館・北広島が2014年3月にオープンして今年で10年、9月8日にまつりを開催しました。北広島支部やサークル、ワーカーズ、市民ネット、10万年プロジェクト、地域の団体などが、活動を伝えたりお店を出したりして盛り上がりました。多くの組合員や顔見知りの地域の方たち、北広島市長も来場してまつりを楽しむ様子に、生活クラブの活動拠点として歩んできた10年の思いを感じました。この先もつながりの輪がもっと拡がり、「おたがいさまのたすけあい」が自然にある場になることを願っています。〈北広島支部担当理事 竹森 明子〉

## INDEX

雑貨マーケットポヌール 出展！  
「生活クラブのこと、知ってますか？」 ..... 3

野本さんの食品添加物講座  
食の未来を決める 私たちの選択 ..... 4~5

2024 幌延サマーキャンプ報告  
北海道に核のゴミはいらない！ ..... 6

葬儀学習会  
自分らしいお葬式を考える ..... 7





# 雑貨マーケットポヌール出展!

# 「生活クラブのこと、知ってますか?」

生活クラブの認知度をアップして秋からの拡大活動を盛り上げるため、雑貨マーケットポヌールに出展しました。来場者と出店者あわせて3,000人を超える人たちに、チラシやパンフレットで生活クラブを伝えることができました。  
〈9/6・7 札幌コミュニティドーム つどいむ〉

## こんなに良いのに、この値段!?

生活クラブのブースでは、ベーコンスライスの試食と温州みかんジュースの試飲を行い、200人以上が立ち寄ってくれました。組合員外の方140人が回答したアンケートでは、「生活クラブのことを知らなかった」「聞いたことはある」「生協は全部同じだと思っていた」などの声が大半でした。生活クラブについて説明すると「こんなに良いものが、この値段なのは安い!」と多くの方が消費材を購入してくれました。

チラシやパンフレットを  
全員に配布



調味料やジュース、石けん類など



わくわくまつりや  
各支部のイベントにも  
お誘いしました

## あなたのまわりの 生活クラブを知らない人へ

友人と来場した組合員は、その場で紹介キャンペーンに申し込み、後日、センターから友人の方へサンプルセット(右写真)をお届けしました。ぜひ皆さんもキャンペーンを使って、まわりの人に生活クラブのことをお知らせください。

安心なものをおともだちに!

## 紹介キャンペーン

トマトケチャップ  
ホットケーキミックス  
ベーコンスライス  
温州みかんジュースをプレゼント



申し込みは  
10/26まで

# 食の未来を決める 私たちの選択

8月30～31日の2日間にわたり場所を変え、組合員に人気の野本健司さんによる食品添加物講座を行いました。両日とも多くの組合員や組合員外の参加があり、31日は釧路支部の組合員もオンラインで参加しました。今回のチュプでは31日、札幌エルプラザで行われた講座「輸入食品を考える」についてお伝えします。  
〈主催：組織活動推進会議〉



のも けんじさん  
食の安全を考える会代表。生活クラブ神奈川の理事などを経て現職

## 講師 野本 健司さん

### 輸入食品の実態

約37%といわれている日本の自給率ですが、実は過去30年ほど変わっていません。報道などで「自給率がどんどん下がっている、今すぐ輸入しなきゃ」と刷り込まれていませんか。輸入が止まると6割の食品がなくなると思っていますか。そんなことはありません。この37%という数値は、人が必要なカロリーに対してではなく、市場に出回っている食品の量、供給カロリーに対しての数値です。私たちがスーパーや飲食店にあるもの全部は食べませんよね。逆に、毎日ものすごい量を廃棄している。ダイエットしなきゃと言いつつ、食べ過ぎている人もいます。そういったことを減らすと、この自給率の数値は上がります。

生鮮野菜の自給率は8割ほどですが、果物は昔に比べて大きく数値が下がっています。これは生産量が減ったのではなく、みかんやリンゴくらいしか食べなかつた日本人が南国の果物などを食べるようになったから。供給力ローとして下がったということ。小麦は国産の価値が見直されて少しずつ上がりましたが、それでも18%くらい、8割が輸入です。醤油や味噌に

も使われる大豆は7%くらい。これは半世紀以上前でも約10%なので、もともと数値が悪い。卵や牛乳の数値はすごくいいけれど、肉は40～60%。市場に出ている肉は国産と輸入が半々ですが、餌がほぼ輸入なので、輸入が止まってしまうと肉は食べられなくなると考えてください。

### ポストハーベスト農薬

ポストは「その後」、ハーベスは「収穫」、収穫した後にかけての農薬という意味です。普通、農薬は栽培する時にかけますよね。収穫○日前からはかけない、期間をおかなくてはいけない等の基準もきちんとあるので、その間に分解したり雨で流されたりして、農薬の残留値は減っていきます。

ポストハーベスは日本だけでなく、ほとんどの国で使用が認められています。収穫後の大豆や小麦に直接かけると、残留値が上がるからです。ところが、アメリカは輸出するものには使用したいと言いつつ、船便で日本に輸出する時、赤道直下を数週間かけて通ると、食品にカビが発生したり虫が出たりするからです。自国では使用禁止なのに、輸出品に限って使

用OKにしました。それで困ったのが日本。今まで危ないからダメと言っていたものを急に大丈夫という訳にはいきませんよね。だから苦肉の策として、ポストハーベスを添加物扱いにしました。アメリカなどから輸入される農産物に限り、添加物としてポストハーベストの使用を認めただけです。添加物としての表記はOPP、オルトフェニルフェノールです。基本的に添加物はパッケージの原材料表示に書かれますが、ばら売りは表示が免除されることをご存知ですか。オレンジやレモン、グレープフルーツなどがスーパーで山積み、ばら売りになっています。ポストハーベストがどのような使われるかというと、まず食品そのものにかける、詰めた段ボール箱にかける、段ボール箱を積んだトラックの上からもかける。その時、トラックにはいません。いたら死んじゃうから。そうやって徹底的に殺菌殺虫します。引越しをする人がスーパーからもらった輸入グレープフルーツの段ボール箱に服を詰め、後からその服を着たらぶわっと湿疹が出



た。調べると殺虫剤や殺菌剤の成分、ポストハーベストが原因だったという話もあります。残留でいうと、小麦や大豆などの穀物は種ですよね。水に濡れると芽が出ちゃうから、流通や加工の段階で洗えません。残留値が心配です。

### 輸入食品の安全性

日本に輸入されるものは、必ず検疫所を通じて放射性物質、遺伝子組み換え、農薬、添加物などを調べます。でも、すべてを調べることは不可能なので、全量の4・7%だけ抜き打ちで行います。その後、市場の衛生検査所でも調べるので、ゲートは2重になっています。しかし、最近市場を通さずに直接買い付けをする大手スーパーなどが増え、検疫所を通ったあととポーンと売り場に行ってしまう。ゲートが1重ということなんです。

このゲートに関しては大きな問題が2つあります。まずは、違反が見つかったけれども、もう食べた後という場合。抜き打ちの4・7%を調べている間にも、生鮮食品などは流通されまです。だから違反だとわかっててもスーパーで売れた後、消費者が食べた後だったら、「全量消費

済み」となってしまう。健康被害が出たら大きな話題になるけど、ちよつとお腹が痛くなったり熱が出たりしても、それが原因とは思いませんよね。特定できませんから。また、激安の裏には必ず輸入食品があります。問屋さんは回収命令が出るって何となくわかるので、「安く売っちゃえ」って。普段200円のトマト缶が急に30円になるのはそういうこと。回収命令が出る頃には、「全量消費済み」です。

もう一つは、2つめのゲートである市場の抜き打ち検査で違反が出たという場合。検査所の4・7%の検査をすり抜けた違反食品です。アメリカのお菓子から日本で禁止されている酸化防止剤が出た、イタリア産の有機フルーツスプレッドから基準値以上のセシウムが出た、タイのライスヌードルが日本で無認可の遺伝子組み換え米を使っているなど、結構見つかっています。

### 食の未来を考る

国産自給率を上げることがとても大切です。とにかく国産品を活用して、買うようにしましょう。でも、みんなが国産品を買うようになると価格が高くなることも。それで買うのをやめる

というのがダメなんです。国産品が駆逐されてしまう。最近でいうと、米不足のため国産米を使っていた外食産業が輸入米を使うようになり、40%もコストダウンした。国産米が手に入らなくなっても戻らないということが起きる。ここがすごく怖いところなんです。やはり意識して国産品を買うようにしていかないと、価格差があるから負けてしまいます。

自給率アップは国家の安全保障問題で、百年の計でやらないと上げることができません。もう崖っぷちにきています。日本がいつまでも輸入できると思っているのもダメ。輸出国だった中国が輸入国になってきている。日本が今まで買っていた国からもう買えないということも起こります。

農家の高齢化問題も深刻です。今、70〜80代で頑張っている農家がたくさんいて、その方たちが廃業したら農地がなくなります。農地はすぐには戻せないし、特に水田は戻りにくい。農家のノウハウが途切れてしまつと、地域によって作り方が全然違うから、それも簡単には取り戻せません。消費者の選択が大きな力ギを握っているのだと思います。

〈取材／五十嵐〉

8/30は

## 食品添加物について学びました！

昨年4月から配達エリアを拡げている千歳市で、組合員外の方も参加できる講演会を開催しました。テーマは「食品添加物を考える」。恵庭支部はもちろん、他支部の組合員、組合員外は事前申し込みのあった方に加え、当日飛び入りの方もいました。

野本先生の添加物に関するさまざまな話をお聞きするなかで、最も印象に残ったのは「使わない添加物を決める企業が増えているが、生活クラブは使用できる添加物が決まっている。大きな考え方の違いがある」というものです。国内では毎年6〜7個の添加物が認可され続けていても、使用添加物が決まっている生活クラブには影響がないそうです。

講演後は、組合員外の参加者に生活クラブのことを伝え、1人が加入してくれました。食のこと、生活のこと、今後も話し合える仲間が千歳に増えて、嬉しい開催となりました。

(恵庭支部担当理事 竹森 明子)



会場は、まちライブラリー@ちとせ。野本先生(右写真)が持参した食品添加物を実際に手に取り、見る事ができました



# 北海道に核のゴミは いらない!

生活クラブは、幌延町に核のゴミ貯蔵施設誘致計画が表面化した1980年代から、地元の方々と共に反対運動に取り組んできました。小学生から80代までの組合員25人が参加した、今年で24回目となる幌延サマーキャンプの様子をお伝えします。

原発ゼロ・市民エネルギー委員会担当理事 小林 恭江

## 1日目

幌延町には放射性廃棄物の深地層処分の研究を行う、日本原子力研究開発機構の研究所があります。私たちはこの研究を一日も早く終わらせるため、毎年役場を訪れて要望書を提出しています。今年も町長に手渡しましたが、「研究終了後は埋め戻す約束。研究は大事なことです」という回答でした。今後も粘り強く私たちの要望を伝え続けていかなくてはと思いました。



幌延町役場の前で野々村 仁 町長(写真中央)と

その後、豊富町セミナーハウスに移動して「ほろのべ核のゴミを考える全国交流会」に参加しました。今年のテーマは「次世代につなぐ闘い」。各団体からは、幌延の問題を若い世代に繋いでいくための実践報告がありました。

夕食後は分科会を行いました。核ゴミの問題を自分事として考えてもらう、次世代への引き継ぎ、豊富町の風力発電開発と環境についてなど、幅広い話題について話し合いました。



交流会参加の皆さんと、実行委員会メンバー  
手づくりのカレーライスで晩ごはん



豊富町セミナーハウスでマウコピリカ宣言!  
「核のゴミは、いりません」

## 2日目

豊富町の『工房レティエ』でジェラートを楽しんだあと、移動の車中では反対運動をけん引してきた酪農家の久世薫嗣くせ しげつぐさんから、1984年に公表された核のゴミ貯蔵施設誘致計画の白紙撤回、当初20年の約束だった深地層研究が延長されたこと、組合員との現地交流などの話を聞きました。

日本原子力研究開発機構へ申し入れを行いました。延長した研究をいつ終わらせるのかははっきりしない姿勢でした。鈴木知事は「幌延で国の政策には貢献している。寿都町・神恵内村の調査は進めない」としています。幌延の深地層研究を一日も早く終わらせるために、しっかりと注視していかなくてはなりません。



1時間以上続いた日本原子力研究開発機構への申し入れ

核のゴミについて知りたいと参加した若い世代からは、「何より実際に幌延へ行くことに意味があった。自分の目で見て感じられたことが一番の学び」との感想がありました。この言葉を私たち世代はしっかりと受け止め、今後も運動を進めなければと思いました。

# 自分らしいお葬式を考える

生活クラブが提案するお葬式を学ぶために葬儀学習会を行いました。当日は組合員やその家族 16 人の参加があり、実際の葬儀会場を見学し、昨今の葬儀事情や「生活クラブのお葬式」についてお聞きました。  
 〈主催：福祉担当理事会 9/3〉



ご夫婦で参加された方も

生活クラブでは、自分らしいお葬式・納得のできるお葬式を行うため、提携葬儀社とともに 2011 年より葬儀事業に取り組んできました。葬儀のあり方が多様化し、さらに「コロナ禍を経て変化した葬儀事情を学ぶため、学習会を開催しました。」

会場は、提携先である北海道葬祭 北海道（札幌市豊平区）。実際に葬儀が行われる場に模擬祭壇を作りました。はじめに、北海道葬祭 松井高志会長が「葬儀事情の傾向」と題して、最近のお葬式について話されました。家族葬・一日葬・火葬式・直葬・一般葬の違いやメリットデメリットについて、自分が納得のいくお葬式をするためにも生前相談が大切、などの話を聞きました。次に、環境に配慮した「エコ棺」



既存の棺は 1㎡の木材から約 27 本しか作れませんが、エコ棺は 54 本も!

を実際に見て、入棺体験を行いました。体験した方は、「不思議な感覚となぜか落ち着く気持ちになった」と話していました。その後、参列者の規模に合わせた大きさの異なる会場を見学し、実際の葬儀をイメージすることができました。最近では家族葬が増え、数百人規模の大会場が使われるのはひと月に 2、3 件だけです。

最後に、葬儀サポーターの齊藤裕子さんが「不透明だった葬儀費用の明確化と自分らしいお葬式を行うため、2010 年に組合員がプロジェクトを立ち上げ、それぞれの想いを生かした納得のいく葬儀について話し合い、北海道葬祭社と第一葬祭と提携しました」と話されました。誰もがいつかは訪れる「その時」を思い、「自分らしいお葬式とは」を考へる機会になりました。

〈福祉担当理事 山崎栄子〉

## 生活クラブが提案する お葬式

ライフスタイルが多様化している現在、お別れの形もさまざまです。生活クラブでは利用者の要望にあったプランを提案し、想いを形にします。お葬式の費用はセットプランではなく、個々に必要なものだけを加算していく「積み上げ方式」です。



葬儀サポーターの齊藤さん

### 返礼品

感謝の気持ちを伝える消費材の海苔・コーヒー

### 葬儀サポーター

葬儀に関しての不安・疑問、どんなことでもお気軽にご相談ください

### エコ棺

軽量で頑丈、環境にやさしい素材でできています

11、12 月も葬儀に関する学習会を行います (P8 参照)。いざという時のために、自分や家族のために、ぜひご参加ください。

問い合わせは、生活クラブ本部 組織活動課まで

☎ (011) 887 - 8891

# information

発行 生活クラブ生活協同組合 札幌市厚別区大谷地東1丁目4-15 TEL 011(887)8891 FAX 011(887)7259  
2024年10月20日 編集 広報委員会 W・C・OプランズPEO

## 加工用トマトの収穫ツアーを開催！

9月6・14日に、滝川市江部乙町の平澤一彦さんと苅田勝さんの圃場へ行ってきました。14日は約20人の組合員が参加。土曜日ということもあり多くの子ども



9/14 初めて訪れた苅田さんの圃場

たちも活躍し、たくさんのトマトを収穫することができました。収穫されたトマトはその日のうちに工場へ運ばれ、早ければ今年中に私たちの手元に届きます。

トマトケチャップの生産者コーミ(株)と生活クラブの意思に賛同してくれた平澤さんは「誰かがやらなければ」と2019年から、苅田さんも2022年から作付けを開始しました。消費者である私たち組合員がトマトケチャップやトマトジュース等の消費材をしっかりと利用することで、持続可能な生産を支えるとともに、国産加工用トマトの産地拡大や自給率向上にもつながります。

〈主催：本部消費委員会〉

本ページに記載しているイベント等については、生活クラブニュースを見て、参加申し込みをしてください。

問合せ 生活クラブ本部 TEL 011(887)8891

<https://www.hokkaido-seikatsuclub.coop/>

## ライフプラン連続講座

ファイナンシャルプランナーの藤井智子さん(NPO法人Wco.FFPの会)を講師に招き、各支部で開催します。安心して豊かな人生を送るために、将来の生活設計を考えてみませんか。詳しくは同時配布の生活クラブニュースをご覧ください。



ニュース  
10月3週

## 葬送と終活を考える連続講座

**第1弾** 旅立ちの衣装  
～自分らしさを表現できる方法～

**日時** 11月27日(水) 10:00～12:00

**場所** 札幌エルプラザ 大研修室 (札幌市北区北8西3)

**内容** 講師は齋藤弘美さん(葬送を考える市民の会)。葬儀社にすべてお任せではなく、自分らしさを表現できる方法について最新情報をお聞きます。

**第2弾** 終活のはなし

**日時** 12月12日(木) 10:00～12:00

**場所** 札幌エルプラザ 大研修室 (札幌市北区北8西3)

**内容** 講師は福田淳一さん(元北海道新聞記者)。最近のお墓事情、終活の備えや考え方を話してもらいます。

ニュース  
11月1週

主催 福祉担当理事会



懐かしい思い出

いしかり支部 朝倉幸子

それは30年以上も前のバブル真っ最中だった頃、生産者(納豆)として初めて出席した生産者交流会でした。すごく緊張して「かてる2・7」の会場に入り、本当に驚きました。会場のずっと後方まで組合員でいっぱい!! 『こんなにも食に対して真剣に向き合っている人が居る光景』を今でも鮮明に覚えています。毎日製造に追われているので、こんな世界があったとは、全く知りませんでした。それからすぐに生活クラブの組合員になりました。あの頃は班しななく、近くの若いママさん達のグループに入っていたきました。そして班会で食べた、豚バラ肉を塩・コショウした焼き肉が凄く美味しかったことも懐かしいです。

生産者としての役目はもう終えましたが、今も組合員は続けています。班から戸配になりましたが、生活クラブで得たものは消費材だけではなく環境、エネルギー、原発、そして地方自治等々たくさん学びがありました。

組合員のエッセイを募集します。4000字程度。テーマの指定はありません。本部川瀬まで、ファックスか業務便で送ってください。



道産 道産簡伐材を配合した紙を使用しています